

宍道湖におけるシジミ漁業実態把握調査

中村幹雄・高橋孝二・三浦常廣

漁業日誌を資料とした平成 10 年度のシジミ漁業実態把握調査によって、大量へい死によるシジミ資源の減少がシジミ漁業に大きく影響を与え、大量へい死から 1 年経過してもその影響は継続しており、深刻な問題となっていることが明らかとなった。

本年度も漁業日誌を資料として、宍道湖におけるシジミ漁業の実態の把握を行ったので報告する。

方 法

各地区（東部：5 人、湖北：5 人、平田：5 人、斐川：5 人、湖南：5 人）のシジミ漁業者計 25 名に、下に示す漁業日誌を毎月記入してもらった。この漁業日誌のデータを用い、漁獲量、操業時間などを月ごとにまとめ、シジミ漁業の実態を把握する資料とした。また、現在（平成 11 年度）の漁業実態を把握する上で、大量へい死以前の平成 8 年度から 10 年度のデータを参考資料とした。

No.								
月分	漁 業 日 誌							
	漁獲量(kg)	大(kg)	中(kg)	小(kg)	その他(kg)	操業時間	操業場所	備考
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
小計								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
小計								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								
小計								
合計								

図 1 シジミ漁業実態把握調査票（漁業日誌台帳）

結果と考察

表1に平成11年度の漁業日誌の集計結果を月別に、表2に地区別にまとめ、図2に平成11年度の1日1人あたりの漁獲量と操業時間の経月変化を、図3に平成10年度における時間あたりの漁獲量と操業時間の経月変化を示した。

表1 漁業日誌月別集計結果

		月											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
漁獲量 (kg/日/1人)	大型	19.8	20.7	21.5	24.3	27.8	33.7	33.0	31.2	34.5	33.1	24.8	28.1
	中型	41.7	59.3	64.2	75.6	79.5	74.4	75.6	73.2	53.9	37.8	29.6	31.3
	小型	24.6	34.8	41.9	32.4	25.8	21.9	24.3	25.4	18.3	10.7	10.1	11.7
	合計	86.1	114.8	127.6	132.2	133.0	130.0	132.9	129.7	106.7	81.6	64.5	71.0
漁獲量 (kg/時間/1人)	大型	6.2	7.3	7.8	8.7	11.6	13.2	12.8	11.4	11.9	10.7	8.0	9.2
	中型	14.3	22.4	28.2	37.9	41.7	38.1	35.9	30.1	19.5	13.3	10.6	11.3
	小型	9.0	13.5	20.8	17.8	14.4	10.5	11.9	11.2	6.6	3.8	3.6	4.2
	平均	29.5	43.2	56.8	64.5	67.7	61.7	60.6	52.8	38.0	27.8	22.1	24.7
操業日数	(日/月)	15.0	15.1	15.6	18.5	15.0	14.5	15.4	16.5	14.5	13.3	12.9	15.8
操業時間	(時間/日)	3.0	2.8	2.6	2.4	2.3	2.5	2.5	2.7	2.9	3.1	3.1	3.0
回答者数	(人)	23	21	19	20	21	19	19	18	19	19	20	20

表2 漁業日誌地区別集計結果

		地区				
		東部	湖北	平田	斐川	湖南
漁獲量 (kg/日/1人)	大型	49.6	30.2	24.0	25.9	7.3
	中型	50.6	53.8	65.4	56.7	62.5
	小型	11.2	24.4	13.1	35.1	32.4
	合計	111.4	108.4	102.5	117.8	102.1
漁獲量 (kg/時間/1人)	大型	14.1	11.2	8.4	11.9	2.6
	中型	14.8	24.2	25.0	31.1	30.5
	小型	3.3	11.7	4.6	16.7	17.2
	平均	32.2	47.2	38.0	59.7	50.3
操業日数	(日/月)	15.5	14.8	15.3	15.2	15.2
操業時間	(時間/日)	3.5	2.6	2.8	2.4	2.4
回答者数	(のべ人)	47	48	50	51	42

1人1日あたりの漁獲量をみると、4月は100kg以下であるが、夏から秋にかけては漁獲制限近くまで漁獲されるようになっている。しかし、12月になってから漁獲量が減少し、1~3月では4月よりも少なく、最も漁獲量が多い8月の半分になっている(図2、表1)。

1人1時間あたりの漁獲量の変化は、1人1日あたりの漁獲量と同様で、4月は少ないが月が変わるにつれ増加し、8月で最も多くなるが、その後減少し1~3月は4月よりも少なくなっている(図3、表1)。

操業時間は、漁獲量と逆相関の関係にあり、夏で1日約2時間、春や冬では1日約3時間となっている。

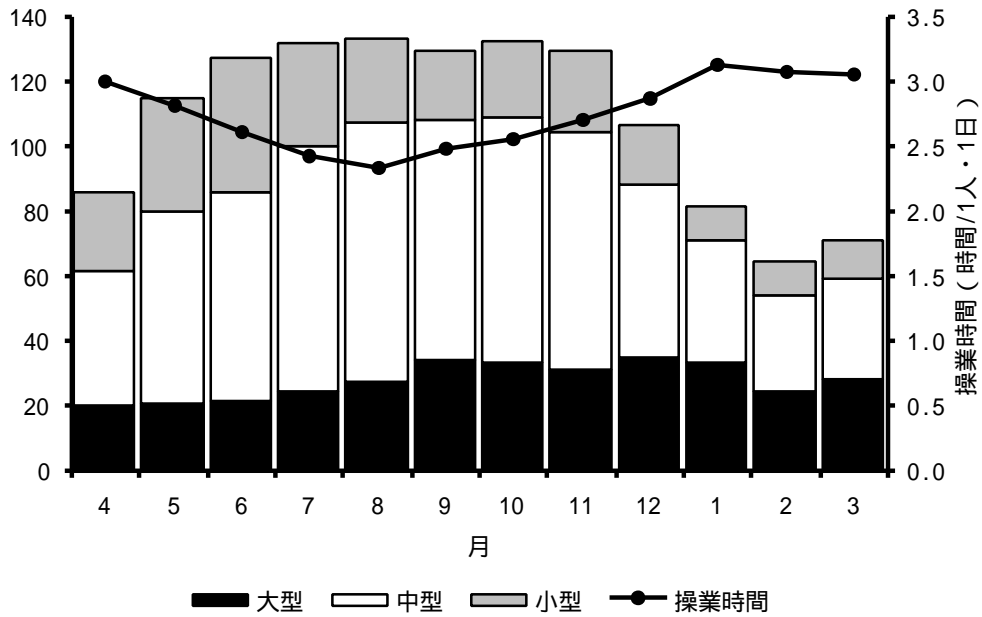


図2 1日1人あたりの漁獲量と操作時間の経月変化（平成11年度）

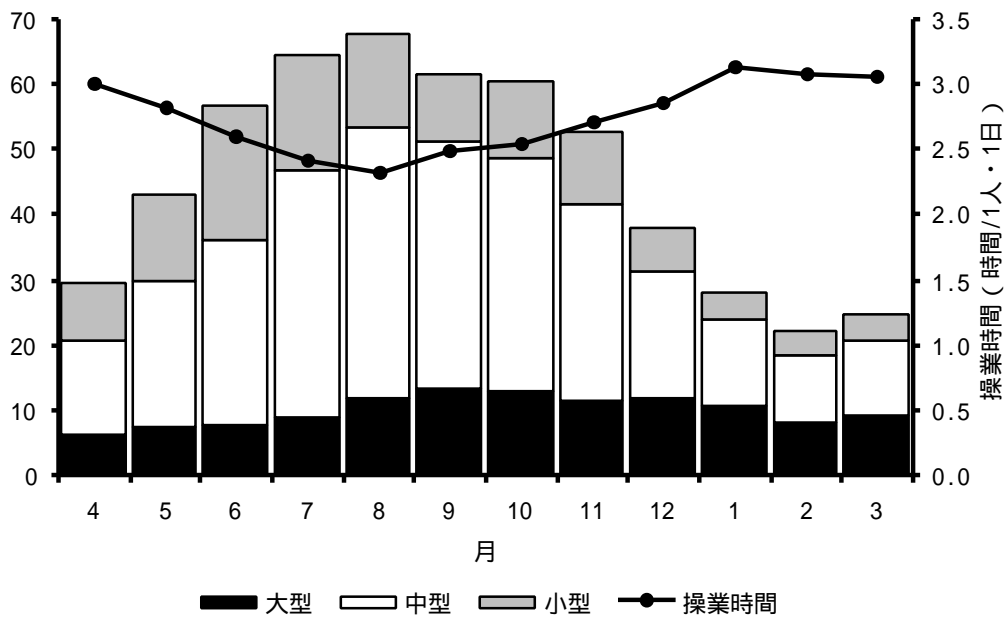


図3 1時間1人あたりの漁獲量と操作時間の経月変化（平成11年度）

以上が、平成11年度におけるシジミ漁業の概要であるが、平成9年度のへい死により大きく影響を受けた宍道湖のシジミ漁業が現在どのような状況にあるかみるために、大量へい死の前年の8年度～9年度のデータと比較してみた（図4、5）。

大量へい死前の平成8年度では、周年ほぼ漁獲制限まで漁獲されている。しかし、大量へい死後漁獲量は減少し平成9年度の冬には1日1人あたり約40kgまで落ち込んでいる。その後、平成10年度になりいったん漁獲量は増加するが、それでも漁獲制限よりは若干少なく、冬になり再び減少している。平成11年度では、平成10年度よりも漁獲量が増えているが、最も多く漁獲される夏でも、大量へい死以前に比べればまだ少なく、平成10年度と同じように冬になると漁獲量が夏の半分くらいに減少している。

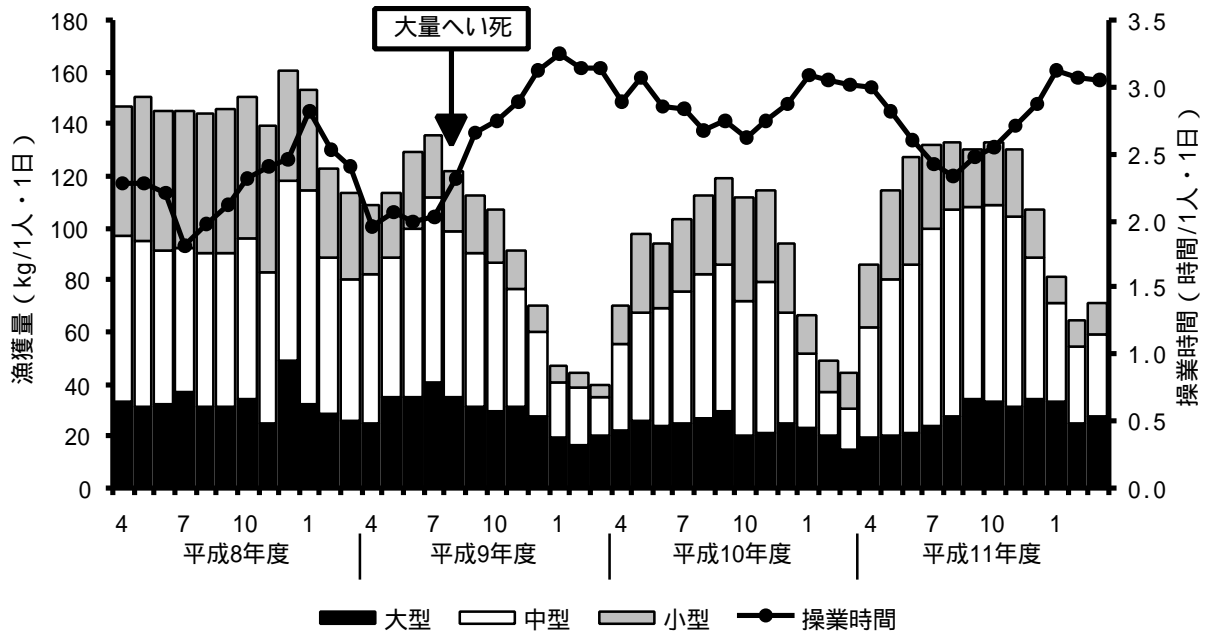


図4 大量へい死前後における1人1日当たりの漁獲量と操業時間の経月変化

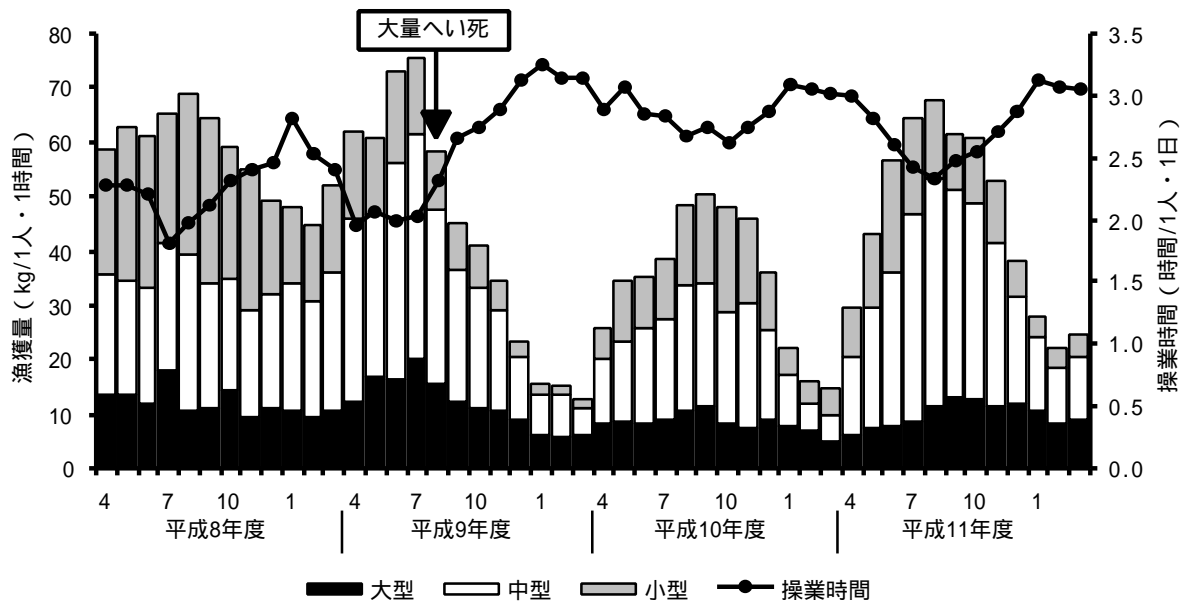


図5 大量へい死前後における1人1時間当たりの漁獲量と操業時間の経月変化

冬になるとシジミが深く潜るため操業に時間がかかるため、時間あたりの漁獲量は夏に比べ冬に低くなる傾向がある。しかし、大量へい死以前の平成8年度では、操業時間を長くすることで季節にかかわらず漁獲制限まで漁獲していたが、大量へい死後、操業時間を長くしても1日あたりの漁獲量は減少している。平成11年度では、平成10年度より全体的に漁獲量が多くなっているものの、冬では漁獲制限の半分ほどの漁獲になっている。

これらのことから、大量へい死によるシジミ資源の減少がシジミ漁業に与えた影響は、幾分やわらいではいるが現在(平成11年度)も継続しており、まだ十分に回復していないことが示唆される。